

平成22年度第3回福井県男女共同参画審議会開催結果

1 開催日時

平成23年2月4日（金） 10:00～11:30

2 開催場所

県庁2階中会議室

3 出席者

(1) 委員

8名（塚本委員、新道委員、高田会長、遠藤委員、林委員、和田委員、吉川委員、増永委員

【欠席】石森委員、和多田委員）

(2) 事務局

中村総務部企画幹、松森男女参画・県民活動課長、前山参事、男女参画・県民活動課員、男女共同参画推進会議幹事課員、生活学習館職員

4 主な意見

(1) 第2次福井県男女共同参画計画（仮称）の論点について

〈あらたな論点〉

- ・ 福井県がこれまで取り組んできた成果の中に、子育て支援の充実があるが、三世代同居率が高い福井県においても核家族化は進行しており、子どもが小さい時に共働き世帯になっていることも考えると、さらに子育て支援の充実が必要、例えば、0, 1, 2歳児の保育の充実、病児保育、障害児を持つ家庭の支援等は重要で論点として加えるべき。
- ・ 男性は子ども産めない。女性だけが子どもを産めるのだから、社会全体で子どもを産み育てることの大切さを認識し、子どもを作ることが働く上でマイナスではなく、出産後も継続して働き続けられる環境を行政も企業も考えなければならない。そのためには、子どもを安心して預けられる保育所の充実等も大切である。
- ・ 福井県は子育て支援が成功しており、全国的にも知名度が高く、対外的にアピールできている。今後子育て支援、介護支援を具体的にどうしていくのがこれからの課題である。女性だけではできないのであれば、男性がどうかかわっていくのかという点で生活スタイルの見直しが必要である。
- ・ 企業は、育児休業中の代替人員を負担しなければならない。コストを減らすために代替職員を減らしてはならない。代替人員を確保することによって女性も安心して育児休業を取ることができる。
- ・ 介護休業を取らせる企業や代替人員を確保するための手当では行政で行うべき。
- ・ 子育て支援という考え方が、支援するというのではなく、当たり前のこととしてすべきものであるという考えに立たないといけない。
- ・ 育児休業や介護休暇を積極的に取らせている企業に対する支援も必要、まずは行政が率先して見本を示すべき。時代とともに、子育てや介護についても新たな課題が出てくる。福井は子育てがあっても、介護があっても働きやすい県だということを売りできるものにしなければならない。

〈あらゆる世代の意識改革と理解促進〉

- ・ 男である女であるという前に人間という人権意識の醸成が必要。子育てにしても介護にしても現状は人権的に言うと女性に対する一種のいじめである。女性の自由意志を尊重しなければならない。
- ・ 固定的役割分担意識は進んだといってもまだ50パーセント、三世帯同居が多いこともあり高齢者の意識改革は大事である。おばあちゃんがネックであり、孫世代からの働きかけは効果的である。育じいも増えている。
- ・ 女性よりも男性、若い人より高齢者に意識の偏りがあるので、世代別のアプローチは効果的である。
- ・ 子育てをしながら仕事もやりたい女性がいればそれを支えていける、また、子育てに積極的にかかわっていききたい男性には、仕事でもそれが認められて子育てにかかわっていけるようになるという多様な生き方を支えていける社会を作っていくことが必要である。
- ・ 世界を見ると労働力率が高い国では出生率も高い。日本は、男は仕事・女は家庭というのが女性は仕事もしている。つまり二重負担、三重負担となっている。男性・高齢者は勿論だが、若い世代も女性に家事負担があるとの前提で、あくまで男性は協力するというスタンス、共働きで平等に助け合うという感覚はない。学校教育の中で、人生について、自分の生き方について主体的に人生設計ができるような取り組みが必要である。

〈女性の能力発揮による企業・団体等の活性化〉

- ・ 県の職員は育児休業を末端組織までとっているのか。県が示さないと一般企業には広まらない。
 - …女性の育児休業取得率は100%近い。あらゆる職種の女性職員で育児休業をとっており、期間も長期化している。代替職員も入れている。
 - …企業に残った人は育児休業をとっている。なぜ残れないのか、なぜ育児休業をとれないのかが問題である。男性が両立できるかというのがこれからの課題である。だからこそ、企業や行政のトップの理解が必要というご意見だと思う。

〈新たな生活スタイルの実現〉

- ・ 女性の育児休業には理解が進んでいるが、男性の育児休業には理解はない。「仕事と生活の調和の推進」に企業のトップの理解の促進を入れてほしい。
- ・ 仕事と生活の調和の推進、男性の生活スタイルの見直しのほかに、団塊世代があと10年もすれば、後期高齢者となる。仕事と介護の両立を進めていく上でも新たな生活スタイルの視点に介護問題も必要ではないか。
- ・ 福井県は子どもが夢をもてない県でワーストになった。共働き率が1位ということも原因かもしれない。父が仕事を楽しくやっているという姿を見せることが大事ではないか。男性の生活スタイルの見直しに力を入れてほしい。

〈多様な選択を可能にする教育・学習の充実〉

- ・ 子どもが夢をもてないというのは、教育の問題だ。しつけをきちんとすることが大切である。働くことはかっこよくないが、それを超えると楽しくなってくる。本当の生き様を見せることが大切である。土日は子どもと接して生き方を教えることは大事である。なぜワーストなのかという原因はなにか。重大な問題だ。
- ・ 父が子どもと面と向かって話すことが大切。なりたいものがないというのが大きいと聞いた。
- ・ 次回のときに子どもが夢をもてないというデータや希望学の研究を進めている中で課題があるのかどうかを含めて示してほしい。

〈その他〉

- ・ 下にいて虐げられている女性の気持ちを察するべき。どうして行動に移すかということが重要である。何をどうするかを具体化するべき。国や県が見本を示さないといけない。
- ・ 幼保一元化が実現し、子ども園になったときによく似た施設の数が多くなり、親だけで最適な施設を選ぶことが難しくなる。保育ケースワーカーが必要になるだろう。まずは相談窓口的なものがあるといいと思う。
…そのような具体的な考え方はまだない。(事務局)
…新しい動きに対して利用する親の側に優しい制度としてほしいというご意見だと思う。
- ・ 2月3日の福井新聞でツイッターを利用し、子育てや男女共同参画をテーマにした座談会の記事を掲載した。女性側からの本音が書かれている。女子差別撤廃条約を批准しているが、日本は何度か是正勧告を受けている。福井は日本の男女共同参画の最先端を目指すべき。
- ・ 男性も女性も自己決定ができるということが大事である。
- ・ 非正規で働いている人で育児休業を取れる状況になっているかどうかは把握しているか。
…事業所に聞いた状況では、非正規でも一定の人は使えるようになっている。例えば、看護師等人員が足りない職場では認めている。しかし、製造業では認めていないのではないかという感触がある。
- ・ 福井県は賃金格差が大きい。全体として正規職員が多いにもかかわらず、賃金格差が大きいことは課題である。賃金面で評価されることを含めて女性の能力発揮が必要だ。会社が女性を評価しているということでもあるので、トップの理解が必要である。
…男女間賃金格差のガイドラインを出している。格差が大きい一番の原因は役職者数の男女差である。
…管理的職業従事者の割合が福井は低いことが影響しているのではないか。